

新規採択振興調整費（環境リーダー）の概略

採択課題名：共鳴型アジア環境リーダー育成網の展開

実施期間：平成20年7月～平成25年3月（5年間）

予算規模：約1億円（30%間接経費含む）×5年（協議中）

1. 振興調整費の種目と趣旨

5 アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進

（5-1）戦略的環境リーダー育成拠点形成

- 1) 途上国における環境問題の解決に向けたリーダーシップを発揮する人材（環境リーダー）を育成する拠点を形成する。
- 2) 留学生と日本人学生の双方を対象（修了後は国外リーダーと国内リーダーになる）
- 3) 既存の環境学系大学院カリキュラムと組み合わせたカリキュラムとする。
- 4) 環境に係る自然科学分野と人文・社会科学分野のバランスよい履修
- 5) 講義・演習のみではなく、企業等へのインターンシップや研究開発を含む実践的な育成カリキュラムの実施
- 6) 修了後のフォローアップ
- 7) 全学的な体制で行い、期間終了後も取組を継続する。

2. 実施内容

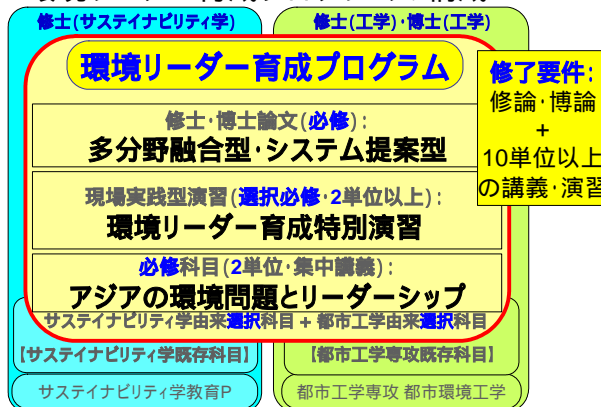
- 1) 全学で調整の結果、工学系・都市工学専攻（都市環境工学コース）と新領域・サステイナビリティ学プログラム（修士課程）の共同事業とする。
- 2) 両プログラムとも国費留学生の優先配置枠を持つが、新規の学生定員、奨学金は措置されない。従って、既存のプログラムの学生の一部を対象にすることになる。
- 3) 養成目標数

		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	5年間 合計	6年目 以降
受け入れ 人数	国外リーダー	0	3(1)	7(2)	7(2)	7(2)	24(7)	7(2)
	国内リーダー	0	3	7	7	7	24	7
在籍人数	国外リーダー	0	3	10(3)	15(5)	16(6)	-	16(6)
	国内リーダー	0	3	10	14	14	-	14
修了見込 み人数	国外リーダー	0	0	2	6(1)	7(2)	15(3)	7(2)
	国内リーダー	0	0	3	7	7	17	7

4) カリキュラムと修了認定証

・修士論文・博士論文と10単位以上の講義・演習からなる「環境リーダー育成プログラム」を構築し、その修了者に修了認定証を発行。すなわち、新領域の学生は修士(サステイナビリティ学)に加えて、工学系の学生は修士(工学)または博士(工学または学術)に加えて、「環境リーダー修了認定証(仮称)」を受ける。

環境リーダー育成プログラムの構成



カリキュラムの構成と実施に当たっては海外のカウンターパート大学、国内企業と協働し、企画と実施を通じてこれらの機関との共鳴を図る。

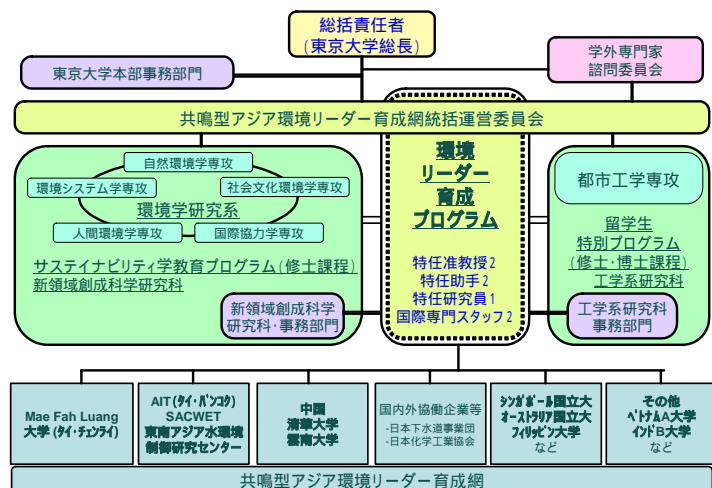
5) 実施体制の構築

・総長を総括責任者とし、新領域サステナプログラム、都市工学専攻が共同で推進する。

・特任准教授2名、特任助教2名、特任研究員1名、特任専門職員(国際専門スタッフ)2名、事務補佐員の新規雇用。(いずれの数も新領域、工学系を合わせた数で、いずれかの研究科に教職員は所属する)

・このうち、特任准教授1名は海外のカウンターパート大学から雇用する。また特任研究員は長期間海外に滞在することを前提とする。

共鳴型アジア環境リーダー育成網の展開(実施体制)



共鳴型アジア環境リーダー育成網の展開(実施内容)

